弘教寺

つつじ寺だより

なにげなく　さりげなく

弘教寺住職　中山英昭

Sさんは寺に来られるようになって、いつもボール紙、新聞紙やプラスチックごみを収集日前にまとめ、集めて持っていってくれます。ある時は、お墓のゴミかごの片付けであったり・・。まさになにげなくさりげなくやって下さっています。たぶん今回紙上にのせたことで、「そんなこと書かないで下さい。」と、お叱りを頂くことと思います。なにげなくあたりまえのように奉仕下さっていることに頭が下がります。

お念仏を称えさせていただくことも、最近そうありたいと思うようになりました。

大泉町に大分県中津からいらっしゃったおじいちゃんがおられました。ご自宅にお伺いし、お経をお勤めしますと、いつも本当に有り難いお念仏が聞こえてまいります。

こんなお念仏は、仏さまと何十年も向かい合わなければ、とても称えられないだろうなと感心させられました。自然に口をついて出てくる味わいのあるお念仏でした。なにげなくさりげなくです。

春の仏教壮年会総会の後の会食の折、皆で食前のことばを唱和した時、会長さんがすかさず一言、「家でこの言葉の後にお念仏を称えているんだ。」と言うと、同席の会員の皆さんが「いいねぇー！」と口々に「ナマンダブ・ナマンダブ」と場が盛り上がりました。すると、会長さん困惑顔で、「声を出して言うのではないんだけれどー。」と一言。

たぶんなにげなくさりげなく、心で称えさせていただくお念仏だったのでしょう。

とにかくそんなお念仏の話のやりとりができるようになったことは嬉しい限りです。

前橋市の清光寺さまの前坊守さんがご健在の時、雑談中にお念仏の話になりました。前坊守さんが外出して帰宅する際に、やっと待って乗れたタクシーの中で、「ナマンダブ ナマンダブ」と思わずお念仏が出たそうです。すると、運転手さんが振り向き変な顔をしていたと笑って話されたことがありました。

世間では、お念仏は、「死者儀礼」の範囲で受け取られますが、浄土真宗のお念仏は、「称名報恩」と言われますように、仏恩報謝の感謝のお念仏です。

「嬉しいことですナンマンダブ」、「有難いことですナンマンダブ」と口で、心で称えていいのです。いつでもどこでも。

門徒さんが本堂で、合掌する場面に出会うことが多いのですが、ほとんどがお念仏なしの礼拝です。仏さまの前で声を出してお念仏してほしいなと、そんな時思います。

以前、このつつじ寺だよりでご紹介したことのある田中みささんの思い出の話があります。ご主人とともに寺にご懇志を持っていらっしゃいました。いつもながら、広告紙の白い部分を袋にした懇志袋。中には大金が入っておりました。手紙が同封され、夫婦の銀婚式も、金婚式もせず、いただいた祝金を納めさせていただきますという内容でした。

私が継職して間もない時、継職法要で着けさせていただく袴を新調させていただくことにしました。仕上がって来た時、持参して見ていただくと、大変喜ばれ、袴に合掌し、お念仏されておられた姿が今も忘れられません。

袴代をお出し下さり、「ありがとうございますナンマンダブ」とお念仏申させていただける世界。いつもなにげなくさりげなくお念仏されていた田中のおばあちゃん。私にとって、一生涯の『心の財産』として大事にしております。

お念仏される田中みささん

門信徒の皆さん、どうぞいつでもどこでも嬉しい時、悲しい時。どんな時でもなにげなくさりげなく、お念仏を「ナンマンダブ」と称えてみて下さい。

ナンマンダブ

第２５号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話０二七０(七四)０五七三

永代経法要参拝

「永代経法要」当日を迎えるに当たり、数日前から役員さんにより準備が進められました。私も二日前から当日まで微力ながらお手伝いをさせていただきました。ご一緒させていただいた方々の手際の良さに感心するばかりで、ついて行くのが精一杯でしたが無事終了し、参拝の方々をお迎えすることができました。

当日は多数の門信徒の皆さんが本堂のご本尊に手を合わせ、盛大に永代経法要が執り行われました。

役員にさせていただいた私には、どれをとっても初めての経験でしたが、新鮮で厳かな一時でありました。

まだまだ未熟の私ですが、尊いお念仏のみ教えを伝えてくれた母を偲び、改めて少しでも多く仏法を聴聞させていただこうと思います。そして一歩でも前へ進めればと思う次第です。

合掌

（飯塚は）

やなせなな♫さわやかコンサート

寺院の本堂をステージに「命」をテーマに歌を歌う、シンガーソングライターの〝やなせなな〟さんをお迎えし、永代経法要のあと「さわやかコンサート」が開催されました。

ななさんは奈良県の浄土真宗本願寺派教恩寺のご住職でもあります。

僧侶として命を題材とした歌を数多く制作され、やわらかな歌声と静かでやさしいメロディが持ち味の〝やなせなな〟さん。

「曲には一つ一つの思い出があり、その思いが積もり積もって曲になります。だから自分の心が動かないと曲になりません。詩は人の心の悲しみに寄り添う力を持っています。私以上に力となって働いてくれます。」と、ななさんはおっしゃっています。仏教と歌を融合させた寺院コンサートが活動の中心となっております。明日を考えて今を生きるのではなく、今を大切にする事で素晴らしい明日が見えてくると云っておられます。

誰かの苦しみに寄り添うような心あたたまる作品を生み出し、一人でも多くの人に届けることが夢だそうです。

ですから、「七夕」などのオリジナル曲は、私達に感動と癒やしの心を与えてくださるのだと思います。

「夕焼け小焼け」、「赤とんぼ」など童謡メドレーも歌って下さり、幼い時のことが走馬燈のように思い出されました。時間いっぱい素晴らしい歌を聴かせていただきました。

最後に全員で「ふるさと」を歌い、恩徳讃で締めくくりました。予定以上に時間がだいぶ延長してしまいましたが、心よく握手をしてくださり、書籍にサインもしてくださいました。本当にお心やさしい〝やなせなな〟さんでした。ありがとうございました。

合掌

（野水た）

やなせ　ななさんの紹介

浄土真宗本願寺派教恩寺第六世住職（釈妙華）
１９７５年奈良県の寺院に生まれる
１９９９年龍谷大学文学部真宗学科卒
２００４年シングル『帰ろう』でデビュー
その後、３枚のシングルと、３枚のアルバム、自伝エッセイを発表、地元ＦＭラジオのＤＪやエッセイスト、コメンテーターとして活躍

皆さんの【憩いの部屋】

今年の4月「憩いの部屋」のテーブル・イス・調度品も揃い、活動がスタートしました。

サークルの囲みの会（囲碁の会、麻雀の会）、パッチワークの会、そして憩いの部屋作りのきっかけとなった門信徒の皆さんが集う「おしゃべりの茶会」がスタートしました。美味しいお菓子を食べ、お抹茶やお茶を味わい、時の経つのを忘れて、おしゃべりの花を咲かせております。

遠い方は太田市からもいらしていただいております。代表の福永さんは、「お茶の会といっても難しい会ではなくて、気楽にお茶を楽しみ、おしゃべりしていただく会なので、どうぞ皆さんご参加下さい。」と言われておりました。

是非皆さんお出かけ下さい。

「憩いの部屋」個人利用での施設利用負担
・会食を伴なう利用　３、０００円
・会食をしない利用　２、０００円
役員会で決めさせていただきました。
ご利用される場合は、弘教寺の方へ
予約申込をして下さい。

おしゃべり茶会に集う皆さん

『いこいのへや日記』より

【5月8日】おしゃべり茶会

おしゃべり茶会のスタート、憩いの部屋で楽しく皆さんと、おいしいお菓子と抹茶をいただきました。これからも微力ながらお手伝いをさせていただきます。皆さんお気軽にお出かけ下さい。お待ちしております。

【6月7日】おしゃべり茶会

久し振りに皆様とお会い出来て嬉しかったです。福永さんにいろいろお茶碗の説明を受け、勉強になり楽しいひとときを過ごさせていただき、有り難うございました。

また、坊守さんにはお忙しい中わざわざ面倒をかけてすみませんでした。機会があれば身体の調子のいいときには出かけて来たいと思います。皆様、有り難うございました。

【7月11日】おしゃべり茶会

午前中のアザレアの方々が、お弁当をとってにぎやかに昼食会をした後、3人程カラオケの会へ行き、残った方々と、住職がお迎えに行ったMさんと他の方々が、憩いの部屋に集いました。

今回は10月の研修旅行のための下見で住職がお土産に買い求めた島根県松江の銘菓「若草」をお抹茶でいただきました。お抹茶の他に、やはり皆さんになじむのはいつもお寺でいただいているほうじ茶でした。

Tさんが古いアルバムを2冊持ってきてくれたので、昔懐かしい婦人会の人々や、前住職、前坊守の写真を見せていただきました。

また、現住職の継職法要時の記念写真もあり、その初々しい話の花が咲きました。

【5月14日】囲碁の会

「憩いの部屋」に阿弥陀さまの絵像があるからここで参拝すれば、帰りは本堂にお参りしなくても良いのかな？・・「いや、せっかくだから本堂にお参りしよう。」と、全員で本堂に。「憩いの部屋」の名について「つつじ庵」と言うのも良さそうである。せっかくお寺に来たのだからご住職ともっとお話しが出来たら・・と思ったりした。

佐藤 敏之さんが初優勝！

弘教寺ゴルフコンペも第17回の大会となり、好天候の5月14日に桐生カントリーにおいて6組23人の参加で、和気あいあいの内にも熱戦が繰り広げられました。激戦を制したのは佐藤敏之さん。写真は大会後の表彰式で優勝杯を手にする佐藤さん。（橋本ま）

作って楽しい・子どもの集い

第2回子どもの集いが5月6日開催されました。高橋友七さんが取材投稿していただき、左のような記事となり掲載されました。

２０１３年５月１２日
上毛新聞に掲載

おいしく楽しく かしわ餅作り
伊勢崎・弘教寺

自分の手でものを作る楽しさを知ってもらおうと、「子どもの集い」が6日、伊勢崎市境米岡の弘教寺（中山英昭住職）で開かれ、地域の子ども40人がかしわ餅作りなどを楽しんだ。

子どもらは婦人会の会員に作り方を教わりながら挑戦。生地をのしてあんこを乗せ、かしわの葉に包んだ。自分で作ったかしわ餅を味わい、大喜びしていた。

「作って遊ぼう」と「作って食べよう」がテーマ。かしわ餅作りのほか、境内の畑でキュウリやトマトの苗を植えたり、チラシを使った小物入れ作りにも挑戦した。

かしわ餅作りに挑戦する子ども

◆この人◆ 玉田 忠さん・太田市

玉田忠さんは、神戸市に生まれ、大学卒業後神戸のオートバイの会社に就職。２年後、ヤマハ発動機（株）よりスカウトされ若手主任設計者として抜擢され浜松に赴任。40歳の時に、凄腕を見込まれオランダで４年間の海外勤務。その後、ヤマハ関連会社の社長を通算８年、顧問を３年。

65歳の時に職を退き、太田市（世良田）に転居。奥様との散歩途中、浜松で紹介された弘教寺を見つけ、住職とお会いできたご縁に感謝されていました。

つつじ寺便りの発刊に際し、編集責任者として「皆さんに読まれ親しまれる新聞」発行の基盤作りに尽力され、現在も「門信徒のための会報」作りをめざし編集員として活躍されています。

書道、俳句、水墨画ともに卓越した腕前をお持ちで、自作の水墨画に自作の句を載せた掛け軸を何本も作成されたそうです。傘寿を迎えられた今、クラシック音楽を聴きながら趣味に没頭するときが至福の時と・・。温厚なお人柄の裏に「やる時は徹底的に」という一面がお話しの節々から伺えました。（栗原ま）

「舞台劇 オセロ」
水墨画

※編集後記※

孫とのあぜ道の散歩で幼い頃を思い出しました。麦の穫り入れ後の田で夜空を飛び交うホタルを夢中で追っかけ、田植えに備えた用水路に落ち学校へ着ていく服がないと母に何度も叱られた事です。夜空のホタルの光は幻想的で美しいですが、手に取り家の電灯の下では黒い虫となります。現実の生活にもおなじ様な事があるようですが。昔と違い自然との触れ合いが、少なくなっている現代社会での、子供達の想い出はどうなるのでしょう。　橋本ま（釈蒙照）

◆行事予定◆（平成２５年　８月 ～ 平成２５年 11月）

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月				
			13～16日	お盆
	19日	婦人会例会		
	24日	夏・子どもの集い	31日～	教区仏壮理事会
9月			1日	一泊研修
			18日	千鳥ヶ淵全戦没者法要
	15日	壮年会例会	20～26日	秋彼岸
	27日	婦人会例会	30日	北ﾌﾞﾛｯｸ寺族女性研修会
10月	8日	前住職・前坊守法要	7日	組ﾋﾞﾊｰﾗ（若宮苑彼岸会）
	12日	子どもの集い		
	18日	婦人会例会		
	22日	弘教寺ｺﾞﾙﾌｺﾝﾍﾟ（第18回）		
	28～30日	仏壮・仏婦合同研修旅行		
11月	10日	壮年会例会	11～16日	築地本願寺報恩講
	22日	婦人会例会		